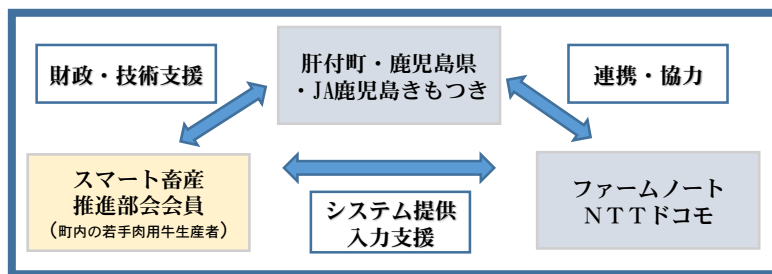


①目的

○畜産の生産基盤の強化が喫緊の課題となっており、その対策の一つとして、ICTを活用したスマート畜産の推進により、地域の畜産の安定的な発展を目指す

②プロジェクトの概要

○町が、肝付町スマート畜産推進部会（町内の若手肉用牛生産者で45才以下の20名を対象）を対象に、アプリケーションを同時に実装。これまで個人利用していたデータを指導関係機関で共有し現場の営農指導に生かそうという取り組みは国内初
○自治体と地域内外の関係機関が三位一体となったプロジェクト



②導入技術・システム（商品名・サービス名と企業名）

○ ファームノート、ファームノートカラー

④導入に当たり活用した補助事業等（国、県）

○ 町単事業により、ファームノートの利用料を町が全額負担
○ 県単事業により、ファームノートカラー等の機器を導入

⑤期待する効果

- 生産性の向上
 - ・分娩間隔の短縮による出荷頭数の増加
 - ・情報の見える化による管理指導の強化
 - ・労働力軽減のほか、生産性と収益向上への貢献
 - ・畜産分野におけるスマート農業の先進モデル化
- 波及効果
 - ・実際にシステムを利用することで、その費用対効果を体験
 - ・費用対効果を実感することにより、システムの導入や地域への普及が促進

⑥課題・今後の展望

- 課題
 - ・導入時の基礎データや発情分娩等の情報入力に慣性化が必要
- 今後の展望
 - ・人工授精師や獣医まで情報の共有範囲を拡大
 - ・今年度の実装の成果を踏まえ、更なるスマート農業の推進を普及を目指す



ファームノートカラー
（牛の首に装着）



令和元年8月28日プロジェクト発表